ここでしか学ぶことのできないことがきっとある

会津からのメッセージ vol.1

会津の歴史から学び、
子ども達の未来へ生かす

会津の教え



ここ、会津の地で学ぶことができるのは「人」として大切な教え

－教育は百年の計にして会津藩の隆興は人材の育成にあり－

会津では、藩政時代の大飢饉による様々な問題の解決策として「教育の振興」を掲げました。
藩祖保科正之公の教えに従って風儀を尊び、礼節を重んじた藩校日新館はその象徴です。
「ならぬものはならぬものです」で締めくくられる什（じゅう）の掟を教え込まれることにより、
会津藩士からは、戊辰戦争やその後に活躍する人材が数多く輩出されました。
「虚言を言ふ事はなりませぬ」「卑怯な振舞をしてはなりませぬ」「弱い者いぢめをしてはなりませぬ」…。
会津の教えは知識偏重ではなく、まず、倫理観を教え、
なぜ学ぶのか、どう生きるべきなのかを身に着けさせることにありました。
時代を超えて引き継がれてきた会津の人づくりに触れることで、
今一度立ち止まって、自らを省みる機会にしてみてはいかがでしょうか。

現代に語り継がれる　会津の教え

家訓（かきん）十五カ条は 1668 年に正之公から発せられ、200 年後の戊辰戦争終結まで引き継がれました。その内容は、徳川将軍家には絶対の忠誠を尽くすものと、藩主の心構えが示されています。

正之公は兄弟である 3 代将軍家光公が亡くなると、まだ幼かった 4 代将軍・徳川家綱公の後見人を務め幕府を支えます。

家訓（かきん）第 1 条は「徳川家に忠勤、忠義を尽くさなければならない」と書かれていて、更に藩主の子孫まで絶対的な忠誠を誓わせています。

この考えが会津藩独特の学問として発展し、その後の歴代藩主に大きな影響を与え、歴代藩主はこの基本的な方針に従い政治を執り行い、他の藩と異なる「士道と忠孝」の一体思想を第一義としていきます。

保科正之公
HOSHINA MASAYUKIKO



保科正之公（土津神社蔵）



家訓 十五カ条
KAKINJYUGOKAJYO

家訓（会津若松市蔵）　保科正之公が定めた家訓

［保科正之公～松平容保公までの歴代藩主］

初代藩主	保科 正之（ほしな まさゆき）	1611～1672
二代藩主	保科 正経（ほしな まさつね）	1646～1681
三代藩主	保科 正容（ほしな まさかた）	1669～1731
四代藩主	松平 容貞（まつだいら かたさだ）	1724～1750
五代藩主	松平 容頌（まつだいら かたのぶ）	1744～1805
六代藩主	松平 容住（まつだいら かたおき）	1778～1805
七代藩主	松平 容衆（まつだいら かたひろ）	1803～1822
八代藩主	松平 容敬（まつだいら かたたか）	1806～1852
九代藩主	松平 容保（まつだいら かたもり）	1835～1893

会津藩主 松平家墓所
AIZU HANSYU MATSUDAIRAKE BOSYO

会津藩の二代藩主保科正経公から九代藩主容保公までが葬られており、昭和 62 年 5 月に国の史跡に指定されました。初代藩主の保科正之公は猪苗代町の土津神社に葬られています。



松平家廟所（会津若松市教育委員会提供）

会津藩の規範 ～君への忠～

　この家訓が会津藩の基本的な方針として、江戸時代を通じて、会津藩と会津藩士の行動を決める重要な規範となり、年頭などには、家老が藩士らを前にして家訓を読み上げ、順守することを誓いました。
　九代藩主松平容保（かたもり）公は「徳川家への忠義」を理由に京都守護職を拝命し、戊辰戦争では愚直なまでに藩の使命を貫き、理不尽に屈せず戦いました。

MATSUDAIRA KATAMORIKO
松平容保公



京都守護職時代の松平容保公（会津若松市蔵）

会津藩士の学び舎「會津藩校日新館」とは



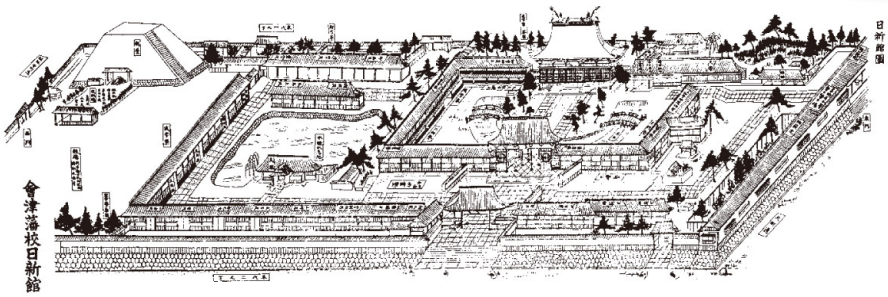
會津藩校日新館

會津藩校 日新館
AIZU HANKO NISSHINKAN



日新館童子訓

　会津における教育のはじまりは、日新館創設より更にさかのぼること 1664 年、日本で初めて民間により創設した庶民のための学問所といわれる「稽古堂」です。
　江戸時代も 200 年が過ぎ、太平の世になってくると道徳の退廃も顕著になってきました。1782 年から数年続いた天明の大飢饉をはさんで、会津藩内でも様々な問題が出てきます。
　その諸問題を解決すべく、五代藩主松平容頌（かたのぶ）公のとき、家老田中玄宰（はるなか）は藩政の改革をするよう進言し、その中心に「教育の振興」をあげ、このことが日新館創設のきっかけとなりました。そして、1803 年には 5 年の歳月を費やし文武の両教科を教授する総合学校「日新館」が完成しました。
　日新館は、文武に優れた人材を育てることを目標として、10 歳になった会津藩士の子弟たちに総合教育を施しましたが、その教育の根本を成したのが「日新館童子訓」でした。「日新館童子訓」は、容頌（かたのぶ）公の命により編集されたもので、主君への「忠」や父母への「孝」などを説いたこの道徳の書は、まさに人として正しい生き方を送るための精神的基盤として会津藩子弟に多大な影響を及ぼすことになりました。









現在の日新館天文台跡

NISSHINKAN
TENMONDAIATO

日新館天文台跡

天文台跡は、藩校日新館が完成した 1803 年頃に築かれ鶴ヶ城西側にありました。当時、天文台を設けたのは有力藩に多く、日新館天文台跡のほかは形をとどめていません。

藩校日新館では選択制の授業の中に天文学があり、藩士の子弟らも学びました。その天文台跡が、現在では国内唯一現存する天文関係の遺構で日本天文遺産に認定されています。



ライトアップされた日新館天文台跡
（日新館天文台保護推進プロジェクト蔵）

什の掟

家訓が藩士の心構えとするならば、武士の子供の心構えとして大切にされたのが「什の掟」で、日新館童子訓による学校教育の前提となるものでした。

什（じゅう）は、同じ町内に住む六歳～九歳までの藩士の子供達十人前後のグループで、年長者が什長（座長）となり、毎日、順番に仲間のいずれかの家に集まりました。そして、什長が掟を申し聞かせ、これに背いた者がいなかったかどうかを反省しました。

掟は、大人たちに言われてつくったものではなく、子供たちが制約や強制を受けずに自分たち自身でつくり、「会津武士の子はこうあるべきだ」ということを互いに約束し、高めあうためのものでした。

「什の掟」

一、年長者のいうことに、背いてはなりませぬ
一、年長者にはお辞儀をせねばなりませぬ
一、虚言をいってはなりませぬ
一、卑怯な振舞をしてはなりませぬ
一、弱い者をいじめてはなりませぬ
一、戸外でものを食べてはなりませぬ
一、戸外で女の人と言葉を交えてはなりませぬ
一、ならぬことはならぬものです

【日新館童子訓】

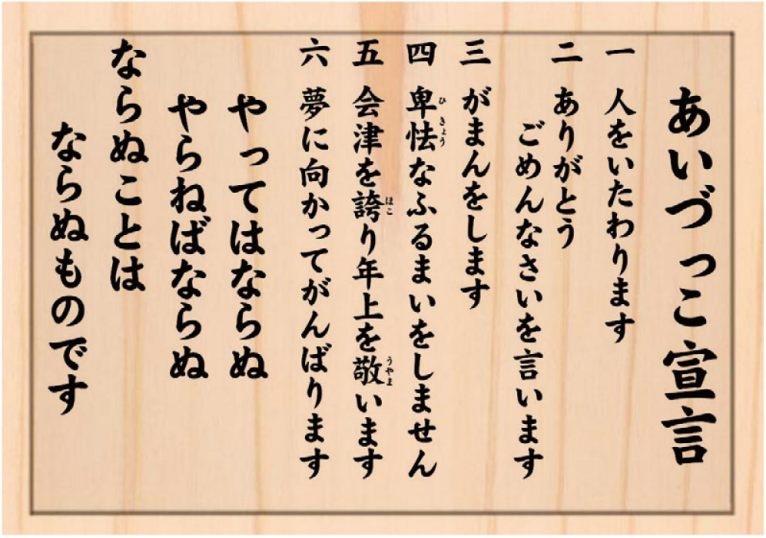
十歳になった会津藩士の子弟たちに教育した

一、三大恩（人は生まれながら父母の恩、先生の恩、社会の恩という三つの大きな恩を受け、その恩に報いる「忠」「敬」「悌」という「人の道」を知らなければいけない
二、養老の道（孝行には「親を尊敬し、期待にそえることができるよう勉学に励む」「清く正しく生き、親に恥をかかせるようなことはしてはいけない」「親に心配をかけることをせず心穏やかに過ごせるよう配慮すること」という三つの孝行を大切にしなければいけない）
三、学問技芸の則（先生に教えを受ける者は先生を尊敬、信頼し、教えに背いてはいけない。勉学、運動、学芸を復習し、身につけるよう努力すること）
四、福を得る道（身体が健康で子孫繁栄し、豊かになるには親によく仕えて孝行しなければいけない）
五、日新の徳(毎日を真剣に生き、善の道に進むことが大切である）

現代の子どもにも教えたい
会津人の心の糧となる「あいづっこ宣言」

2010 年に東京書籍から発行された小学校 6 年生の社会科教科書で、會津藩校日新館が「江戸時代の武士の学校」として紹介されています。会津藩の先進的な人材教育に注目されてのことでした。特に、会津藩士が武士としての心構えなどを学ぶための規則「什の掟」が原文のまま掲載されています。

会津若松市では、この「什の掟」の精神が息づく「あいづっこ宣言」を平成 14 年に策定しました。これは本市に脈々と受け継がれてきた、次代を担う青少年への熱い思いを、会津の伝統的な規範意識を踏まえ取りまとめたもので、青少年の健全育成に向けた市民共通の行動指針です。「人づくり」こそ地域発展の礎として、教育に力を注いできた歴史と伝統は私たちの誇りであり、その風土は現代にもたしかに息づいています。



あいづっこ宣言（会津若松市提供）

会津の教えに関する史跡・施設



鶴ヶ城

会津若松市のシンボルである鶴ヶ城は、幕末の戊辰戦争では新政府軍の猛攻に耐え難攻不落の名城と称えられました。

現在、天守閣内は郷土博物館として、一層から四層では歴代領主の変遷や幕末の動乱、会津の歴史などをパネルや映像で紹介。年間を通してさまざまなテーマの企画展・特集展も開催しています。



飯盛山

戊辰戦争のおり、16 ～ 17 歳の少年たちで編成された白虎士中二番隊が戸の口原合戦場から退却し、戸の口堰の洞門をくぐり飯盛山に辿り着くと、鶴ヶ城の天守は黒煙の中に見え隠れして、「城は陥落したか、今は主君のために殉じよう」と、全員が自決しました。1 人だけ生き残った 飯沼貞吉 によって、白虎隊の忠義と悲運の物語は広く人々に知られるところとなりました。



会津武家屋敷

会津武家屋敷は、会津藩家老西郷頼母邸を中心に中畑陣屋（県重要文化財）、数寄屋風茶室、歴史資料館などが立ち並ぶ「歴史テーマパーク」です。会津の工芸品、民芸品を取りそろえた「郷工房　古今」、会津の郷土料理が味わえる「御食事処　九曜亭」などが併設されています。



会津若松城下絵図（福島県立博物館蔵）

発行・お問合せ　一般財団法人 会津若松観光ビューロー　観光物産事業部
〒965-0873 会津若松市追手町5-10　TEL：0242-23-8000　FAX：0242-23-9000
http://www.aizukanko.com/

2021.03